

要 約

昭和 35 年度試験より 和牛に対するビートトップ サイレージの給与試験

岡山県和牛試験場

ビート栽培の副産物であるビート・トップを和牛飼料として利用促進するため、ビート・トップサイレージを、当場で育成中の種雄候補牛に給与し、給与限界量を採り、併せて牛体生理に及ぼす影響をも調査した。

◎この試験は2頭の供試牛を用いて2回に分けて行った。即ちはじめ1頭を試験牛（ビート・トップサイレージ給与）とし、他の1頭を対照牛（とうもろこしサイレージ給与）とし、ついで5日間の移行期を経た後、両者を入れかえて同様の試験を行った。

飼料給与は上記（ ）内の粗飼料の他、体重の1.2%の濃厚飼料と若干の乾草とを給与した。

ビート・トップサイレージは、日量・体重の3.5%

から給与し初め、毎日0.5%ずつ増量し、10日後には8.0%まで給与した。

◎その結果、和牛のビート・トップ、サイレージに対する嗜好性は極めて良好で、とうもろこしサイレージよりも好食し、体重に対する重量比で6～7%

（炭酸カルシウムをビート・トップ、サイレージの0.3%添加給与）の給与で排糞は幾分軟らかくなったが、飛散するほどではなく、血液、尿、その他一般的な牛体生理に何ら悪影響は認められなかった。

なお、給与したビート・トップ、サイレージは、当場において、トレンチサイロに詰めて調製したもので、粗成分は次のようであった。

ビート・トップ、サイレージ粗成分(%)				
水分	粗蛋白質	粗脂肪	粗繊維	粗灰分
83.29	2.06	0.16	1.52	1.21